

平成 30 年 (2018年) 度 学校教育目標・評価の観点

I	一人ひとりに応じた学力をつける	(1) 基礎基本の徹底	(2) 指導方法の工夫・開発
		(3) 話す力・読む力・書く力の重視	(4) 受験学力の向上
II	個性を大切に、「創造性」を培う	(1) 進路を意識した学校生活の充実	(2) 基本的な生活習慣の確立と健康な心身の育成
		(3) 一人ひとりの生徒との対話の重視	(4) 人権教育(いじめ・体罰等の防止)の一層の充実
III	地域に根差した開かれた学校づくりを進める	(1) 授業の公開	(2) 学校評議員制度の活用
			(3) 地域学を中心とした外部講師の活用

平成 30 年度の重点目標

- ①学習における基礎基本の定着と応用力を身につけるための個に応じた指導体制を築く
- ②自らの判断と行動により、特別活動などを含め充実した学校生活が送れるよう支援する
- ③地域や各教育機関と連携し、地域に根ざした活動を行うとともに、積極的な情報発信に努める
- ④保護者との連携を密にし、いじめ・暴力・体罰のない安心安全な学校づくりに努める

領域	対象	評価項目	今年度 評価の観点
教育活動	教育課程	①学習集団の編成	1年生について学力に応じた学習集団の編成ができたか。
		②特色ある教育課程の編成	2年生について進路を見据えた適切なコースができたか。
			3年生について生徒の進路希望に応じた講座編成ができたか。
	学年		「総合的な学習の時間」の内容の充実が図れたか。
	学習指導	①授業の工夫・改善	生徒にとって分かりやすい授業が実践できたか。
			教員が授業を互いに見合う機会や情報・意見交換の機会を持てたか。
			各教科において、生徒が学力を高めるにあたっての有効な指導方法の模索ができたか。
		②個に応じた指導	学校設定科目「プログレス」を中心に、生徒の学び直し・学び高めの有効な指導ができたか。
			生徒一人ひとりの理解度を把握した上で個別指導がなされ、学習意欲を喚起できたか。
			ポプラアカデミーと連携・協働し、学習意欲を喚起できたか。
		③体験的学習の充実	生徒の実態に即して、体験的な活動を取り入れた学習が進められたか。
	④読書活動の啓発	年間の図書館の利用者数が増加するなど、生徒全体に読書活動を促す取り組みができたか。	
	生徒指導	①職員間の意識の統一	職員会議等の会合において、生徒指導の方針を全職員で共有し確認できたか。
		②生徒が安心して学べる環境づくり	学習環境を整備すると共に、暴力や威圧、いじめを予防することができたか。
		③家庭との連携	家庭と連絡、連携をとりながら、生徒に関する諸課題に対処、指導することができたか。
		④生徒との対話	生徒と対話、コミュニケーションをとりながら、必要な指導をすることができたか。
	進路指導	①キャリア教育の推進	「蓼高タイム」におけるインターンシップの実施等を中心に、将来を見据えての進路選択につながる指導ができたか。
		②進路目標の確立と進路実現	生徒一人ひとりが進路目標を持ち、自己の課題に意欲的に取り組むよう指導できたか。
	特別活動	①生徒会活動の充実	執行部が中心となり、生徒一人一人が参加できる活動となるよう指導できたか。
		②部活動の充実	加入の促進を図り、活発な活動や発表の場となるような環境を整えることができたか。
学校運営	地域連携	①授業公開	地域、中学生、保護者等に対して蓼科高校の特色が理解できるような授業を公開することができたか。
		②広報活動	フォトニュース、学校案内パンフレットやホームページを通じて、地域や中学生などに本校の魅力を発信することができたか。
		③外部との連携	地域学など外部講師の活用を通じて、校外機関との連携が図れたか。
研修	①職員研修の充実	課題に応じた職員研修の機会を設定できたか。	